

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	14S3027	院生氏名	齋藤 孝義
通学キャンパス	小田原キャンパス		
論文題目	TENSIO MYOGRAPHY を用いたつまずき群, 非つまずき群における筋特性評価とパフォーマンステストとの関係について		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>本論文は Tensiomyography を用いて、つまずきを経験する健常高齢者の筋収縮特性を明らかにすることを目的に研究 1~3 で作成されている。</p> <p>研究 1 では、Tensiomyography を用い、健常若年成人男性 50 名と健常高齢男性 50 名を対象に下肢周囲筋（大腿直筋、内側広筋、外側広筋）の収縮特性を比較検証している。結果、健常高齢者は健常若年性人よりも、遅延時間（Td）は左大腿直筋、左外側広筋で有意に延長、収縮時間（Tc）は左右すべての筋で有意に延長、持続時間（Ts）は左右の大腿直筋・外側広筋で有意に延長していた。また、最大変位量（Dm）は左右の大腿直筋・内側広筋で有意に低値を示した。</p> <p>研究 2 では、Tensiomyography を用い、地域在住健常高齢男性 50 名をつまずき群（22 名）と非つまずき群（28 名）に分類し、下肢筋（大腿直筋、内側広筋、外側広筋、前脛骨筋）の収縮特性を比較検証している。結果、左外側広筋の持続時間（Ts）のみが非つまずき群はつまずき群に比べて有意に延長していた。</p> <p>研究 3 では、研究 2 の同一対象に対して、Timed Up & Go test (TUG)、片足立位時間、座位ステップングテスト、座位連続足関節底背屈運動テストの 4 つのパフォーマンステストを実施し、つまずき群と非つまずき群を比較検証している。結果、すべてのパフォーマンステストにおいて両群間で差を示さなかった。</p> <p>結論として、Tensiomyography は筋収縮特性を簡便に評価でき、転倒はしていないがつまずきを経験する者の筋収縮特性を明らかにする可能性が示唆された。しかし、本論文の対象者は比較的活動性が高かったこともあり、運動を伴うパフォーマンステストにおいて、下肢筋の収縮特性を明らかにするまで至らなかった。</p> <p>審査会を実施するに際して、提出された論文内容に確認事項が散見されたため、あえて審査会前に確認事項をコメントし、審査会での報告に反映を促し、その後審査会を 2 回実施した。しかし、図表及び本文の修正が不十分であり、論文構成に齟齬が見られたため、改めて論文の再修正を求めたところ概ね適正に修正された。</p> <p>以上の結果を踏まえ、審査会の審査員全員で協議した結果、本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認められた。</p>			
論文審査担当者	主 査	森田 正治	
	副 査	下井 俊典	
	副 査	崎浜 智子	